

# Solaris ネイティブ言語サポート クイックスタートガイド 1

Solaris™ ネイティブ言語サポート機能を使用して C、C++、Fortran のプログラムを開発する方法を説明します。

IDE を起動するには、端末ウィンドウで `runide.sh` と入力します。

## 1. ディレクトリへのアクセス

IDE からディレクトリにアクセスするには、まず、ファイルシステムとしてディレクトリをマウントし、IDE からファイルシステムを利用できるようにする必要があります。

1. メインウィンドウで「編集」をクリックして編集作業スペースに切り替え、「エクスプローラ」ウィンドウを表示します。
2. エクスプローラで「ファイルシステム」タブをクリックします。
3. 「エクスプローラ」ウィンドウの上部にある「ファイルシステム」アイコンを右クリックし、コンテキストメニューを表示します。
4. 利用可能なバージョン管理ツールを使用する場合は、コンテキストメニューから「マウント」→「バージョン管理」を選択します。それ以外の場合は、「マウント」→「ローカルディレクトリ」を選択します。

## 2. ソースファイルの作成

1. 「エクスプローラ」ウィンドウの「ファイルシステム」タブをクリックします。
2. 作成するファイルを保存するディレクトリに移動します。
3. ディレクトリを右クリックし、コンテキストメニューから「新規」を選択します。
4. 適切なファイルの種類を選択します。
5. 拡張子 (接尾辞) を付けずにファイル名を入力し、「完了」をクリックします。

指定したファイルがエディタに表示されます。

ヒント - ファイルの種類が見つからない場合は、テキストファイルを作成して適切な拡張子を付けます。

## 3. ソースファイルへのアクセス

1. エクスプローラの「ファイルシステム」タブでソースファイルのある場所に移動します。
2. ファイルをダブルクリックし、エディタでファイルを開きます。

ヒント - IDE のオンラインヘルプには、文字列検索、マクロ、省略形、構文強調表示、書式設定のショートカットといった編集機能の使用方法に関する説明があります。

## 4. Makefile の作成

Makefile はプログラムのコンパイル方法を IDE に指示するものです。Makefile を作成するには、メインウィンドウから「構築」→「新規 Makefile」を選択します。

## 5. 実行可能ファイルの構築

1. エクスプローラで Makefile のある場所に移動します。
2. (省略可能) 既存の構築からオブジェクトファイルを削除する場合は、Makefile を右クリックし、コンテキストメニューから「生成物を削除」を選択します。
3. (省略可能) ターゲットを指定したり、make コマンドに引数を渡す場合は、Makefile の「プロパティ」ウィンドウを使用します。

4. Makefile を右クリックし、コンテキストメニューから「実行」を選択します。

IDE の「出力」ウィンドウに make のメッセージとコンパイラのメッセージが表示されます。

ヒント - make の使用方法については、オンラインヘルプを参照してください。

## 6. プログラムの実行

1. エクスプローラで実行可能ファイルのある場所に移動します。
2. (省略可能) 実行可能ファイルに引数を渡す場合は、「プロパティ」ウィンドウの「実行」タブで入力します。
3. 実行可能ファイルを右クリックし、コンテキストメニューから「実行」を選択します。  
「出力」ウィンドウにプログラムの出力が表示されます。

## 7. プログラムのデバッグ

1. Java™ クラスをデバッグする場合は、クラスファイルの「プロパティ」ウィンドウを開き、「デバッガ」プロパティに「dbx デバッガ」を設定します。
2. エクスプローラで実行可能ファイルを右クリックし、コンテキストメニューから「デバッグ」→「開始」を選択します。
3. デバッグセッションが実行中の場合は、「新しいセッションを開始」ダイアログボックスが表示されます。現在実行中のセッションを終了して新しいセッションを開始する場合は、「完了して開始」をクリックします。新しいセッションを追加する場合は、「追加セッションを開始」をクリックします。

「デバッガ」ウィンドウが表示されます。

「デバッガ」ウィンドウの使用方法については、Solaris ネイティブ言語サポートのオンラインヘルプの「dbx デバッガによるデバッグ」を参照してください。

ヒント - アクティブな Solaris プロセスにデバッグセッションを接続する場合は、メインウィンドウで「デバッグ」→「接続」を選択し、「接続」ウィンドウの「デバッガの種類」で「dbx デバッガ」を選択します。コアファイルをデバッグする場合は、「エクスプローラ」ウィンドウでコアファイルを右クリックし、コンテキストメニューから「デバッグ」→「プログラム読み込み」を選択します。

## 8. プログラムのパフォーマンス解析

1. `-g` コンパイラオプションを使用して C、C++、Fortran のプログラムをコンパイルします。  
Java プログラムをコンパイルする必要はありません。
2. プログラムのパフォーマンスデータを収集します。

`collect(1)` コマンドを使用して実験ファイルを作成します。`collect` コマンドの構文は以下のとおりです。

```
% collect collect-options prog-name prog-args
```

Java プログラムのパフォーマンスデータの収集では、バージョン 1.4 以降の Java 2 SDK を使用する必要があります。`collect` コマンドは、拡張子が `.jar` と `.class` のファイルを認識します。ヒント - 最善の結果を得るには、他のプログラムが動作していないコンピュータで `collect` コマンドを使用します。

3. エクスプローラで実験のある場所に移動します。実験をダブルクリックし、パフォーマンスアナライザツールを起動します。

プログラムのパフォーマンス解析とツールの使用方法についての詳細は、パフォーマンスアナライザのオンラインヘルプを参照してください。

## 9. 困ったときは

必要な情報	参照先
IDE の起動方法	『Forte™ for Java リリースノート』
IDE を使用した C/C++/Fortran プログラムの作成、コンパイル、デバッグ、解析について	「ヘルプ」→「ヘルプセット」→「Solaris ネイティブ言語サポートのヘルプ」
IDE の基本的な機能の使用方法	「ヘルプ」→「ヘルプセット」→「Core IDE Help」
IDE のウィンドウの使用方法	ウィンドウをクリックして F1 キーを押します。
Forte Compiler Collection のマニュアルページ (API リファレンス情報など)、マニュアル、README ファイルのある場所について	Web ブラウザで以下の URL を開きます。 file:/opt/SUNWspro/docs/ja/index.html Forte Developer ソフトウェアが /opt ディレクトリ以外の場所にインストールされている場合は、システム管理者に実際のパスをお尋ねください。